

April 1999



かみのけ座 : しし座の東に星がゴチャゴチャと集まっているところがあります。この星の集団は Mel(メレット) 111 という星団ですが、かみのけ座の主要部分でもあります。かみのけ座、乙女座付近は星以外に非常に多くの銀河(渦巻き星雲)があります。

皆さん My Star はご覧になりましたか。4月11日現在の「星の登録者」は4,008人で、ついに言うかようやくというか4000人を越えました。

この冬は天候に恵まれずほとんど星空を見るできませんでした。

これから見られる主な天文現象は5月2日の火星接近、7月28日の部分月食、8月11日の皆既日食(インドからヨーロッパ方面)、8月12/13日のペルセウス座流星群、11月17/18日のしし座流星群などです。

綺羅星・星座図譜

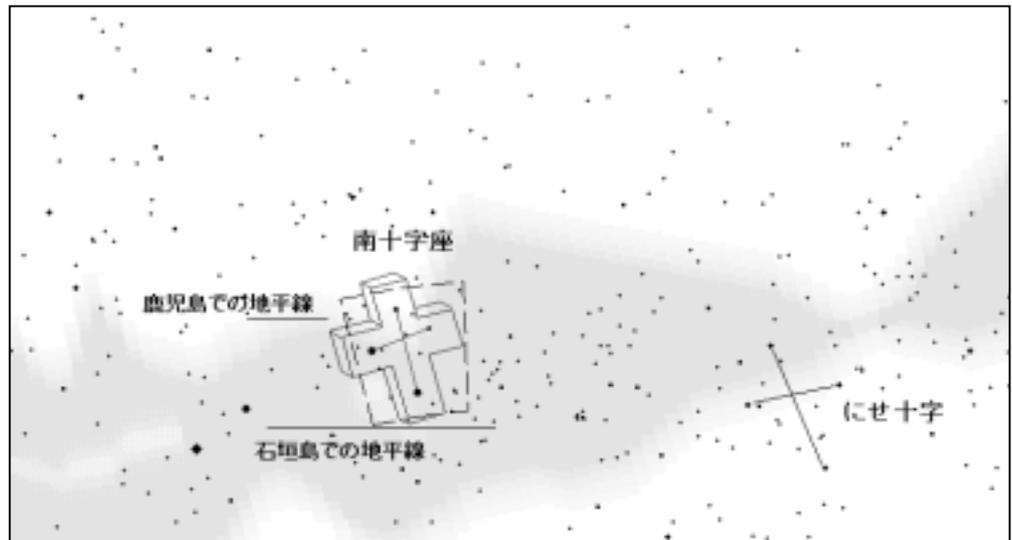
南十字座 (Crux)

多くの人たち、特に北半球に住んでいる人たちにとってあこがれの星の一つがこの「南十字星」でしょう。正確には「南十字座」という星座で、面積は全星座中もっとも小さく、68 平方度(南北と東西の長さを角度で計算した面積)しかありません。一番大きな海へび座は 1303 平方度で、南十字座の約 19 倍もあります。

南十字座は 1589 年にプランキウスが作ったのですが、正式に星座としたのはロワーエで、1679 年のことです。

南十字はからす座が南中したころ、ちょうどその真南にあり、夕方の空では 5 月のゴールデンウィークのころ見やすくなります。星座は小さいですが、1～3 等星が 4 つ、十字型に並んでいるのが見られます。

さて、この南十字ですが、どこで見られるでしょう。南半球へ行けば高くあがるので簡単に見つけることはできますが、日本から見えるでしょうか。実は鹿児島から南の地方では見えるのです。とは言っても鹿児島では一番上の星が



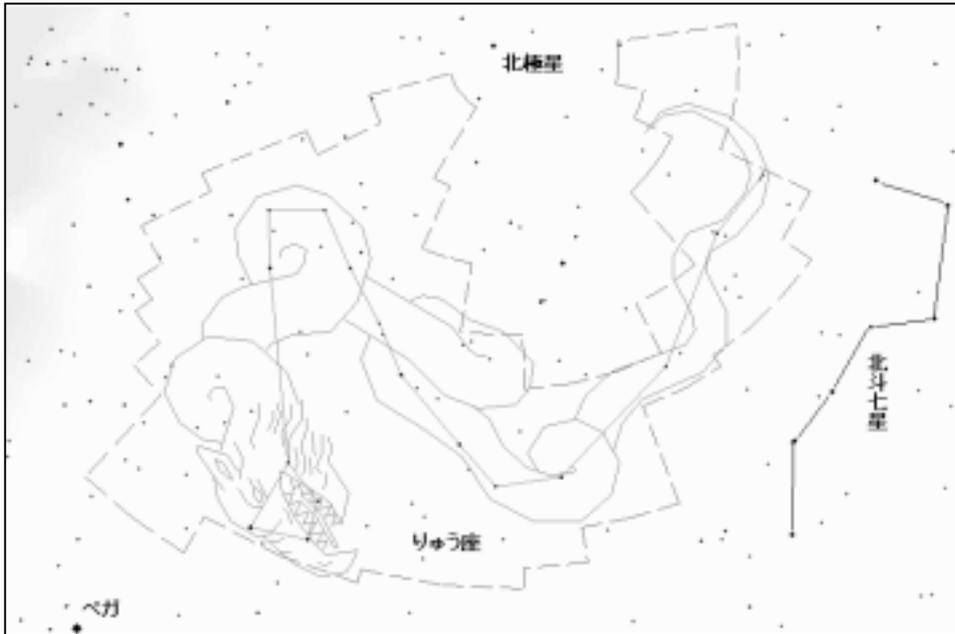
1 個見えるだけなので十字のイメージは有りません。石垣島では 4 つの星がぎりぎりで見えます。

もっと南の地方で見ると、南十字座の南西方向にもう一つの十字が見えます。帆座と竜骨座の星でできる十字で、「にせ十字」と呼ばれていますが、南十字より少し大きく、こちらのほうが目立ちます。南十字は天の川の中にあるので星がたくさんみえますが、左下(南東)がすっぽりとぬけたように見えます。これは暗黒星雲によって天の川の一部が隠されているためで、この部分はコールサック(石炭袋)と呼ばれています。この東にはケンタウルス座のアルファ、ベータの二つの 0 等星が光っていてなかなかにぎやかです。

りゅう座 (Draco)

りゅう座は北極星をぐるりと取り巻くようにある星座で、日本では一年中沈むことのない星座の一つです。プトレマイオスの 48 星座に含まれる古い星座で、ギリシャ神話では「黄金のリンゴ」を守るりゅうとされています。

ヘルクレスの 12 の冒険に、この黄金のリンゴを奪ってくるというのがあります。黄金のリンゴを求めて世界中を訪ね歩いたヘルクレスは、天をかついで立っていた巨人アトラスに「ひととき仕事を肩代



わりするから黄金のリングを取ってきてほしい」と頼み、りゅうが昼寝をしているすきにまんまと手に入れたということです。

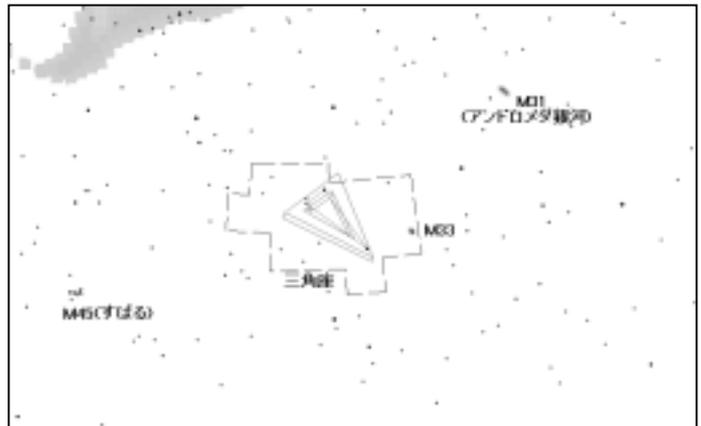
りゅう座にはあまり明るい星はありませんが、こと座のベガの北に歪んだ四辺形があり、それがりゅうの頭になります。りゅうの尾の部分に4等星のツバーンという星があります。あまり目立たない

星ですが、今から 5,000 年ほど前には北極星として輝いていて、エジプトのケオプス王のピラミッドには、中心にある「王の部屋」からこの星が見えるようにトンネルが掘られていました。

頭の近くに「黄道の極(歳差点)」があります。この点を中心に 26,000 年ほどでゆっくり星が移動しているため、北極星も少しずつ位置が変わって行きます。そして 8,000 年後にはデネブが、12,000 年後にはベガが北極星になります。

さんかく座 (Triangulum)

アンドロメダ座の南、ペガサス座の東にある小さな三角形をした星座です。小さな星座は新しいものが多いのですが、これはトレミーの 48 星座に含まれる古い星座の一つです。さんかく座は、ギリシャ神話には登場しませんが、ナイル川の河口にできる大きな三角州に似ているところから、「ナイルのデルタ」、または「ナイルの家」などと呼ばれていたようです。他にはこれといった神話は残されていません。



さんかく座はその名の通り 3 つの星が小さな三角形を作っています。星座の面積は 8 番目に小さく、肉眼で見える星は 20 個ほどしかありません。主な星は 3 等星が 1 個と 4 等星が 2 個で他は暗い星ばかりです。

これといって取り柄のない星座ですが、さんかく座を有名にしているのは M33 の存在でしょう。M33 は距離が 250 万光年と M31(アンドロメダ銀河)について近い銀河で、見かけの大きさは満月の 2 倍ほどあります。暗い空では双眼鏡でぼんやりとした姿を見ることができます。

綺羅星列伝

皆様からお寄せいただいた星物語の一部をご紹介します。お寄せいただいた物語はしょさんべつ天文台にあります。いつでも閲覧できますのでお立ち寄りの際はご一読ください。

星の名前 : **Planet KEIGO**

11月9日 3260g で産まれた圭吾
お腹の中にいる時から 元気に小さな足を動かして顔は見えなくとも きっと丈夫な子だと思った
産み月の数週間前 心拍が少しおかしいと言われた
毎日こんなに元気に お腹の中で動いているのになにかのまちがいだと思った
願う事しか出来なかった 元気に産まれてくる事を...

そして予定日を5日も前にして陣痛より先に破水が始まりました
初産は遅れるものだと言われていたせいか
不安が募っていく “どうか無事に産まれてきてほしい”
そればかり願って...
そして11月9日の明け方 AM5:13
7時間50分も苦しんで産んだ圭吾の顔と大きな泣き声を聞いた時 身体じゅうの力が抜けふるえが止まらない
うれしかった まだ血まみれではあったけれど心からすなおに “かわいい” と思った
首から体にかけてへその尾がバツテンの形にからまっていた
「これで時々 音がおかしかったのねー でも大丈夫だから 元気なお子さんよ」

助産婦さんの声が聞こえる
圭吾はお父さんと研修の女の子 その先生 助産婦さん2名 先生2名という大勢の人達に見守られて産まれてきた
翌日 はれて圭吾を抱き上げ病院内を歩く
病院に来るときには小春日和で雪のカケラすらなかったのに 今はもう白い世界 窓から2人外をながめたりしてすごした
大勢の来客があった みんなに祝福された
毎日 仕事帰りに圭吾のお父さんは顔を出した やっと家に帰ってきたと思ったら なれない夜中の授乳や泣き声で こまりはてたり泣いたりした
でも毎日楽しい発見をする 少しずつ大きくなっていく圭吾
授乳の後 体に似合わぬほど大きなため息をついたり 声をかければ少しだけれど笑顔らしきものをうかべてくれる
その姿に一喜一憂する毎日
そんなある日 初めて “成田圭吾” あてに郵便物が届く
星のおくりもの ペガサス座にある小さな星
送り主は友人 出産祝いであったが 折しも 12月23日 圭吾にとって一足早い 産まれて始めてのクリスマスプレゼントとなった事はいうまでもない

圭吾ママ

圭吾が生まれた朝、病院からひとりでアパートに戻る時、自分の子供ができたことに改めて生命の神秘の様なものを感じた。自分のお父さん(圭吾のおじいちゃん)も自分が生まれてたときに同じ様な気持ちになったのだろう。

いったい圭吾は将来どんな人間になるのかな、心

の優しい人かな? 勇気のある人かな? ととても楽しみにしているよ。

今は小さくて、頼りない男の子だけど、これからどんどん大きく成長して、お父さんとお母さんに元気な顔を毎日見せてほしいな。

圭吾の父ちゃん

星の名前 : **N Tact333 A**

今年、息子は3歳、主人は30歳の誕生日を迎えました。

つまらない事なのですが、この先息子が4歳の時両親が40歳、5歳で50歳...など、なるわけもなく、多少、こじつけではありますが、子の記念すべき年(?)を放ってはおけず、息子への贈り物として星を登録することにしました。

天文台でいただいた“星座名一覧表”に「さんかく」座を見つけた時、あまりに私達の希望にピッタリで嬉しくなっていました。

ちなみに“N”は主人の頭文字、“T a c t”は可愛い(親ばかりです)息子の名前、“A”は私の頭文字、“333”は(正確には30330なんです...)記念すべきこの年と、「3人」という意味が含まれています。

万が一、この先、家族がバラバラになるような事があっても(そんな事のないように星をお願いしてあります。)息子が成長して私達の元から遠く離れていっても、つらいこと、悲しいこと、甘えたいこと、懐かしいこと、いろんなことがあ

ても、家族3人で仲良く、しあわせに、寄り添って暮らしている、この今をこの星に重ね合わせ、これからの支えにしてもらいたいのです。

「どんなに離れていても一緒なんだよ」そんな気持ちなんです。

1人ずつ別々にすぐ近くにでも登録してもらおう事も考えましたが、3人が一つの星を見つめる事に意義があるように思えて、ひとつの星に3人の名前を入れました。

まだ何の意味も、星の存在さえもよくわからない3歳の息子にプレゼントしたかったのは「しあわせな今」だったんです。

そして同時に、未来の息子のためのプレゼントでもあるのです。

お誕生日おめでとう、拓人。

1998.7.31

パパ、ママより 愛を込めて。

星の名前 : **Tetsuya Kawabata**

私達がはじめて「川畑さん」に会ったのは、1986年の旭川東高天文部観測旅行のときでした。8/10～8/13の日程で、ペルセウス座流星群の観測が目的だったのですが、初日は天候不順で観測できず、二日目からようやく観測ができました。

お互い声をかけなければ相手が判別できないような暗がりの中、ひとりだけ「誰ですか？」とたずねても答えない人がいました。流星観測のときは記録係以外地面に仰向けになっているはずなのに、その人だけはしゃがみこんでいるのです。「先輩...誰か知らない人がいます」「あ、川畑さんかな」確かにそれが川畑さんでした。

なんでも、去年(1985年)の観測旅行で、たまたま北海道旅行中の川畑さんと天文部の先輩方が意気投合し、「来年も来る」ということになったそうで、天文部のOBでもなければ高校の関係者でもない「スペシャルOB」と呼ばれていました。私より7つ年上でしたから、当然先輩方よりも更に年上でしたが、偉ぶるでもなく、一緒になって大量のロケット花火を打ち上げてみたり、殺虫剤に点火して火炎放射器にしてみたり(危険なので絶対真似しないように!)、なんとなく「みんなのお兄ちゃん」という感じでした。

川畑さんは、それから毎年とまではいきませんが、ちょくちょく観測旅行に顔を出していたので、私の卒業した後の後輩達が、OBは知らなくても川畑さんは知っている、という位、ほんとうに「スペシャルOB」でした。

どういう訳か川畑さんは、下の名前を教えてくださいませんでした。時々届く手紙の差出人の名前も用心深く“川畑”としか記されておらず、天文部員の中でもし川畑さんの下の名前がわかった人がいたら、必ず部員みんなに知らせるようにとまで言っていたのです。

1992年8月13日、バイクの事故で川畑さんが亡くなって、数日後にその知らせを受け取った私は、その時になって初めて川畑さんの下の名前が“哲也”であったことを知りました。そして、他のみんなにしても川畑さんが亡くなったという知らせを連絡したときに、かねてからの取り決め通りに川畑さんの下の名前についても知らせました。

でも、こんな形で知りたくなかなかかった。

数年後、この“My Stars system”をどこかで見てからずっと、川畑さんの星を登録してもらおうと思っていましたが、今年ようやく実行に移せました。無理かなと思いましたが、札幌から初山別まで自転車で往復しました。なんとなく、そうするのが一番ふさわしいかなと思ったのです。途中、川畑さんのように私も死んでしまったらどうしよう、という思いに何度もかられましたが、なんとか無事に帰ってこられました。

所有者は連名不可という事だったので、まあ、苦勞してここまで来た私だし、みんなには許してもらおうと思って、一応私の名前で登録してもらいました。“できるだけペルセウス座流星群の輻射点(流星が流れる、その中心点)に近い星”という希望もかなえて下さった天文台の方々、本当にありがとうございました。

所有者は私になっていますが、「“川畑さんの星”は、川畑さんを知る私達みんなのものとする」と“所有者”の権限において、ここに宣言します。

星の名前 : **IWATTI&MITTI**

初山別村へ初めて訪れたのは2人が結婚して2年目の今年の夏の事でした。

2人が出会ったきっかけは数人で走ったバイクツーリングでした。その当時の2人は、250ccのオフロードバイクで、長距離のツーリングは少しつらいものがありました。主人は結婚前にハーレーの1300cc バットボーイを、こっそり買っていたのですが毎日の仕事の忙しさにおわれて、免許もとれずじまいでした。

今年から教習所での大型二輪取得ができるようになったのをきっかけに、主人が一番のりを取り、私も背中を押されるように、つづけて取りに行きました。

早速休みに、ハーレーでタンデムツーリングへ出かけました。大型二輪の安定性と重厚感をいやという程味わった2人でした。

その後主人は私に、ダイナスーパーグライド1300ccをプレゼントしてくれました。『今しか乗れる時はないよ』といいながら、夫婦でハーレーに乗って旅行することが主人の夢でもあったのかもしれない。

その夢が実現したのが、初山別村へ星を見に行くツーリングでした。生憎、ツーリング2日目の初山別村は曇りで、星を見る事はできませんでしたが、そのかわりに、2人にこんな素敵な星のプレゼントをして頂いて、感謝しています。いつかまた星を見に行こうと約束しています。

2人が60才、70才になっても、あの時の気持ちを忘れずに、愛車のハーレーに乗って、天文台の望遠鏡から私達の星を見る事が、私の夢になってしまいました。

星の名前 : **KAISEI**

“KAISEI”というのは、私達の大切な子供の名前です。“海星”の名前は、二人で一生懸命に考えました。平成8年1月18日生。海のように広くキレイな心で、そして星のように輝く人生でありますように。と、願いを込めて命名しました。

私達も、おじいちゃん、おばあちゃんも、おばさんも、この名前が大好きです。

いつか、家族で星の海星を見上げることができる日を楽しみにしています。何十年後かは、海星が将来を共に過ごす人と一緒に見てほしいなと思っています。

いつか星を見に行った時には、もう一度、星に名前(KAISEI)の願いを込めて、お祈りしようと思います。その日が楽しみです。

初山別村からのお知らせ

第23回 しょさんべつ岬まつり

初山別村最大のイベントです。岬台公園を中心に歌謡ショー、ゲーム、じゃんけん大会、花火大会などが催されます。あなたもゲームに参加して豪華景品をゲットしませんか。

日時：7月31日～8月1日



初山別村は、明治34年9月に秋田・庄内方面からの入植者によって開拓されて、今年でちょうど100周年になります。村名が「初山別村」と決まったのは明治42年4月に村制が施行されてからです。

「初山別」の名前の由来は、アイヌ語「シュサンベツ/小さい沢のある川」、「ソウサンベツ/滝落ちる川」、「シュサムベツ/シュサム魚の川(シュサムは魚の名)」、「シュシユ・サム・ベツ/柳原の近くの川」など、いろいろな説があります。

天文台がオープンしたのは平成元年7月10日。今年でちょうど10周年になります。この10年間で天文台を訪れた人は15万人を越えています。



第8回 しょさんべつ星まつり

一晩中星を見て、聞いて、作って楽しくすごします。星を見たい人、祭り事が好きな人、人に迷惑かけない人など参加自由ですから気軽に遊びに来て下さい。秋の星座と春・冬の星座の一部も見えます。この機会にMy Starをご覧ください。

日時：7月31日18時～8月1日9時



[連絡事項]

住所・氏名が変更になりましたらご一報ください。星物語はいつでも募集しています。郵便、E-mail どちらでも受け付けますので、お気軽にどうぞ。

[編集後記]

例年になく多かった雪も、4月まで持ち越し中旬になってやっとなくなりました。本州ではすでに桜の季節は終わっているところも多いんでしょうね。北海道の桜は5月が本番で、ここ初山別では5月中旬ころかな。

編集・発行 初山別村教育委員会社会教育係 〒078-4421 北海道苫前郡初山別村字初山別 155-1

インターネットホームページ URL = <http://hokkai.or.jp/shosanbe/> E-Mail shosanbe@hokkai.or.jp